

水戸の活性化に利用

「MITO（ミート）」という銘柄のイタリア産ワインを活用し、まちおこしや活性化を図る取り組みが水戸市内で始まった。銘柄が水戸のローマ字表記と同じことに着目、水戸商工会議所や市民が呼び掛け、飲食店やホテルなどでワインを提供する機会を増やし、話題作りを広げる考えだ。



「ワイン『MITO』を楽しむ会」が開かれ参加者が意見交換した。水戸市千波町

このワインは、イタリア北部エミリア・ロマーニャ州産。イタリア語で「MITO」は「伝説」を意味する。酸味が強い辛口で、濃厚な料理に合う高級ワインだという。年間2万本程度が生産される。

水戸市千波町のレストラン「とう粹庵」を経営する上田豊人社長が同ワインを発掘し、数年前から店で提供してきた。これに水戸商議所の和田祐之介会頭らが目をつけ「水戸の

提供飲食店拡大図る



イタリア産のワインをきっかけに、交流を「MITO」。水戸商議所などがまちおこしに活用を模索している。水戸市千波町

活性化のため広めよう」と提案、ワイン活用の動きが本格スタートした。

同市のワイン店「ワインデマミ」を営む植田真未代表を通じて、今年100本を輸入した。14日には初めて「ワイン『MITO』を楽しむ会」をとう粹庵で開き、市内の企業らに提供した。

同市は同州と1985年のつくば科学万博

ソムリエでもある上田社長は「水戸にちなんだワインとして、飲食店や宿泊施設、ギフト品、公式行事などで飲まれると面白いのではないかと話した。

和田会頭は「伝説という名前のワインは水戸にふさわしい。水戸は黄門様や食についての伝統もあり、イタリアとの友好にも生かすとまちづくりにも良い効果が出る」と期待を込めて話した。

（綿引正雄）

茨城新聞HPに動画